



# FIGU 特別公報



不定期刊行物

インターネット : <http://jp.figu.org>

E-メール : [jp@figu.org](mailto:jp@figu.org)

第 11 巻 第 16 号

2005 年 2 月

## 世界の出来事について

(新しい会見記からの抜粋)

第 370 回会見からの抜粋 2004 年 12 月 31 日、0 時 4 分

**プター**：君の質問は東南アジアで起きた海底地震による大災害に関するものだと思うが、どうかな。

**ビリー**：その通りだ。何よりも君に聞いておきたいのは、その後多数の死者について君たちが確認した結果だ。君たちの計算によると、実際の死者の数はどのくらいになったのかね。

**プター**：最新の数はもはや確率計算によらず、我々の装置を使って求めたデータに基づいている。我々の機器および装置は、極めて多様な種のバイオグラムを生きている生命体と死んだ生命体について記録するが、その結果を分析することによって非常に正確なデータが得られた。大災害に見舞われた全地域で命を失った人間に関して言えば、その数は今日の夕方 17 時 14 分現在、正確に 24 万 1078 人に上ぼる。

**ビリー**：つまりそれは装置によって記録されたすべての死者の数であり、生きている人間は含まれていないのだね。

**プター**：この数は死者だけだ。すでに言ったように、我々の機器および装置は生きている生命体または死んだ生命体を突き止め、記録するようになっている。大災害によって死んだ者の多くは地中深く埋まっているか、あるいははるか沖合の海に連れ去られ、二度と再び発見されることはない。バイオグラムの記録および把握に関して我々の技術全体は非常に完成度が高く、どんな生物種でも分析して、その状態を確認することができる。したがって我々には正確な死亡時刻を把握し、それが人間なのか動物なのか、それとも別の生命体なのか確認できる。さらに我々の機器装置は、男性か女性か、年は何歳か、どのような事情で命を失ったかまで記録する。我々のセンサーの作用は陸ならば地下約 8000 メートル、海中ならば 1 万 2000 メートルの深さまで届く。

**ビリー**：そういうことならば、君たちが把握した死者 24 万 1078 人という数字が、もっぱら大洪水の直接、間接の犠牲者であるというのは絶対に確かだ。

**プター**：それは私の説明の核心をついている。我々の記録は極めて正確であり、いかなる誤りもない。しかし大災害に見舞われた国々では、人口の登録が不正確なため、行方不明者の正確な数もわからず、したがって死者の正確な数を突き止めることはできないのだ。だが我々は正確な数字を挙げるができる。我々のバイオグラム記録装置は誤りなく機能するからだ。

**ビリー**：それは明らかだ。しかし君は津波が時速 1500 キロメートルに達するとも言ったが、それはまさし

く音速だ。本当にそんなことがあり得るのかね。

**プター**：たとえば流星や彗星が海中に突入するなど、ある前提のもとでは確かに可能だ。しかしまた高さ1000メートル以上の津波が発生することもあり得る。それは海中にある巨大な火山が噴火したり、流星や彗星が海に突入したりといった特定の前提のもとで起こり得る。

**ピリー**：それはほとんど想像を越えている。その事実は我々地球の科学者は知らないし、だからこそ彼らが反駁するだろうということは当然予想できる。多くの科学者は非常に視野が狭いので、自分たちの理解力では捉えられないもの、自分たちの知見を越えているものは何もかもあからさまに否定し、信じようとはしないのだ。

**プター**：それは実際、非常に多くの地球人科学者の間にある害悪だ。彼らは極度に思い上がっており、何でもよく知っていると言い張るが、その多くは真理とは相容れない。

**ピリー**：我々の科学者たちは東南アジアで起きた海底地震により地球の軸が6～10センチメートルずれたと言ったが、本当にその通りかね。

**プター**：地軸の移動が起きたのは本当だが、君が挙げた寸法は事実とは異なる。実際にずれたのは12.4センチメートルだ。

……

**プター**：もちろんそうだ。しかし自然災害はそうした疫病や病気に尽きるものではない。というのは災害がさらに拡大して限度を越えるのに、多くの無責任な人間も寄与しているからだ。商売をやっている地元の人間や外国人、それに多くの観光客にとって、最初のショックは二日後にはもう消え失せた。なぜなら、商売人が早くもあらゆる手段を駆使して、再び観光業を立て直そうと躍起になったからだ。他方、観光客は被災者の苦しみや悲しみには一切頓着せず、人間蔑視の非人間的な態度で、良心のかけらもなく観光地や海岸にはびこり、まるで世界は自分たちだけのものであるかのように振る舞っている。それと並んでいろいろな国の無責任な連中が、破廉恥な被災地ツアーを企画している。この種の観光客は被災者の苦しみや悲しみを喜び、遠慮会釈なく何でもビデオや写真に撮り、故郷に帰って家族や友人や知人に得意げに見せびらかすのだ。観光客がやることと言えば、それだけではない。「ヘルパー」の仲間も含め、かなりの数の小児性愛分子が、災害で孤児になった女兒や男児を性的に虐待したり、それどころか性的凌辱のために彼らを誘拐したりすることも厭わない。また別の変節した観光客や「ヘルパー」は、途方に暮れた女性を辱めている。すでに現地の犯罪グループも暗躍し始めており、子供たちを収容施設から引き取っては売り飛ばしている。児童売買が成り立つのは、子供のいない裕福な家庭に子供を売るか、子供たちを労働奴隷として売りに出すか、あるいは児童売春に送り込むためである。それとは別に現地の人間もまた、収容施設にいる絶望している女性を犯したり、略奪を働いたり、行方不明者の家や半壊したホテルから一切合財盗み出したりしている。別の犯罪組織は、援助物資を運ぶトラックを襲って強奪し、物資を被災者に高く売り付けている。被災地では犯罪が隆盛を極め、商売人の破廉恥も尽きることを知らない。これらの商売人は被災者の苦しみや悲しみを餌に巨額の富を得ようとし、そのためには良心のためらいもなくあらゆる手練手管を弄する。これらの破廉恥な分子やいまわしい連中は現地人だけでなく、被災地に居着いた外国人もいる。観光業が再び繁盛しているのも事実である。だがそれで利益を得ているのは一般の国民ではなく、政府と、直接観光業に関わり、金儲け

をしている者たちだけだ。それは比率で見れば国民全体のごくわずかなパーセンテージにすぎない。つまりこの少数の者だけが観光業で儲けて、贅沢ぜいたくに暮らしている一方、大多数の国民は相変わらず貧しい生活を送り、あるいは人生の手ひどい仕打ちを受けているのだ。

ビリー：アメリカが実施すると公表した援助について君は何と言うかね。

新聞記事 2005年1月19日水曜日、チューリヒ

### ライス、非難を買う

アメリカ合衆国国務長官に任命されたコンドリーザ・ライスは、上院の公聴会で、アジアで起きた津波災害を「千載一遇のチャンス」と呼び非難を買った。「合衆国政府のみならずアメリカ国民の寛大さを示すための千載一遇のチャンス。それは我々にとって十分引き合う話だと思う。」(ワシントン)

プター：私が知っている限り、アメリカは大統領ジョージ W. ブッシュの命令で行動している。この男の側からすればすべて責任感のある支援を見せかけるとともに、自分について善良で隣人愛に満ちたイメージを抱かせるためのアリバイ工作にすぎない。最終的に目指しているのは、東南アジア諸国でこれまで成功しなかった影響力を確保し、そこで地歩を固めることにほかならない。もちろんこのことは誰も認めようとはしないだろう。なぜなら真理は求められずに、禁じられているからだ。

ビリー：君は本当にそう思っているのかね。

プター：単に私の意見ではなく、経験則に基づいているのだ。それはまた合衆国大統領ブッシュ・ジュニアのすべての政治的、軍事的な振る舞いや態度、そして等しく忌まわしい態度と感性をしたアメリカの連中の行動に基づいている。

ビリー：もちろんそこで言われているのはアメリカ国民全体ということではなく、いま君が言った道を進み、同じ大ぼらを吹いている連中や、国と国民を「統治」している上層部の変節者たちだ。

プター：私の意見もそうだ。

ビリー：私が欲とがの皮の突っ張った援助組織を咎めたとき、念頭においていたのは言うまでもなく汚らわしい富のみに執心している組織のことだが、彼らは法外な報酬をせしめ、寄付金で自分たちの組織を運営しようとしているのだ。しかし君はそのような援助組織は純粋に名誉職として活動しなければならないし、国によって組織されねばならないと言った。だがそれは具体的にどのように運営すべきか教えてくれないか。おそらく軍隊によってか。何らかのグループまたは組織が災害援助などの分野で活動する場合、そしてそれらが名誉職としてのみ働く場合には、寄付金がそうした組織に渡されるのは正当なことではないだろうか。私自身それは悪いことではなく、正しいと思う。そうすれば1セント残らず被災者や援助を必要としている人々の手に渡るからだ。

プター：君は全く正しい。君もFIGUのすべての会員もこの枠内で行動していることは、すでに前回訪問したときに言った通りだ。この点で君たちのすべての行動はあらゆる公式の援助組織から抜きん出ている。なぜなら君たちは本当に名誉職として活動しており、そのことを公表して自慢し、世間の注目を集めようとはしないからだ。君たちは静かに行動する。それぞれの人間がごく個人的にするように、全く騒ぎ立てず名誉

職として、私利私欲なしに価値ある援助を行っている。金銭やその他の寄付を受け取る援助組織が、その何パーセントかを組織の運営や、スタッフの報酬に転用することは法律で禁止されねばなるまい。この場合、パーセンテージをどの程度高く、あるいは低く設定するかは重要ではない。たとえ1パーセントでも1セントでも、自分の目的に転用したならば、それは恥ずべき窃盗であり、寄付をした人や援助を必要としている人々に対する詐欺を意味するからである。援助はいかなる場合も完全に無私で名誉職として行われなければならない。なぜなら援助はすべて名誉な事柄であり、真の人間性に根ざすものだからである。このことは我々の間でも早い時期に認識されたので、寄付の転用によって金儲けをすることを一切禁じる法律が制定された。事実、寄付から何らかのパーセンテージや報酬を横領する者は皆、そうしたパーセンテージや報酬のために「援助」するのであり、真の援助のため、本当に困っている人々を助けるためではない。そうした人間は自分たちの「援助」を報酬が支払われるべき純然たる仕事と心得ており、同胞に対する善行や援助とは考えていないのである。これが事実であることはすでに聞き及んでいるが、まさにいま述べたことが該当する連中は躍起になって否定するだろう。

ビリー：それは実によくわかる。これに関する我々の会話を公開したら大騒ぎになるのは目に見えるようだ。やましい連中はわめきたて、我々二人をくそみそにこきおろすだろう。

プター：そうなることは絶対間違いあるまい。君は国の援助組織について尋ねたが、これについては次のように答えよう。我々のもとでは災害援助などの使命は非常に早い時期に国の管理下に置かれた。そのために秩序と安全を維持するための部隊を作り、義務を負わせ、そして通常の家計から報酬を支払った。援助活動のために集められた寄付は、最後の1セントまで本来の目的に使用された。そして今日、我々はもはやいかなる金融手段も扱わないので、災害時の援助活動は正規の秩序・安全維持部隊の所管となっている。もちろん我々のもとにも災害時に貴重な働きをしてくれるボランティアは大勢いるが、彼らは所轄機関によって管理されている。なぜならば、特定の秩序というものがなければならず、どんな現実的な援助もそれによってのみ成り立つからだ。

ビリー：君たちの所にも自然災害はまだあるのかね。

プター：エラ自体にはない。すべてが我々のコントロール下にあり、正しく組織されているからだ。しかし宇宙に広がっている我々の連盟にはいろいろな世界でしばしば大規模な自然災害が起きて大きな被害が発生し、人命が失われている。そこでは秩序・安全維持部隊により組織された援助が行われている。これにはボランティアも関与しているが、彼らは名誉職として無私に自分たちの義務を遂行している。

ビリー：つまり君たちのことについて言えば、それはエラのことではなく、君たちの連盟に属している別の世界の話であり、それらの世界は自然の猛威の制圧ということに関しては君たちエラ人ほど進んでいない、ということかね。

プター：ああ、私の言葉はそういう意味だ。エラでは自然災害に関してはすべてコントロール下にあって組織されており、自然が猛威を振ったときに誰も被害に遭うことがないように法律で規制されている。我々は自然を完全に抑え込むような形で影響を与えるのではなく、気象を形成するなど責任ある形で影響を及ぼしている。エラでも自然は猛威を發揮することがあるが、最悪の形を取って人間の財産に被害が生じたり、人命が失われたりすることがないように制御される。

## 第371回会見 2005年1月7日、0時12分

ビリー：私は次回の公報でこの予告および預言のテーマを再び取り上げて、すべて世界中に回覧したい。そのためにまたぞろ世界改良家、壁に悪魔を描く男、不安をかき立てる者、知ったかぶり屋、白痴など罵られようと構わない。おそらくそのすべては少数の人々の間で何らかの成果を生み、十分に熟考され、ある日そこから包括的な理性が生まれ、ついに人類はすべてを良い方向へ変えなければならない、ということを理解するに至るだろう。もちろんこれは地球がそれまでに完全に破壊されず、人類が自分自身の無分別によって絶滅しないことが前提だが。

プター：君の要求は見上げたものだ。だが、警告に関する君の行為はこれまでと同様、全く実を結ばないことが懸念される。地球人の間にはあまりに多くの知ったかぶり屋がいるが、彼らは君の言葉をまだ芽のうちに摘み取るのに十分な力を持っているからだ。こうした分子とは、なかんずくこの事柄を対象とする学問の自称専門家、官庁、政府、そして企業のことだ。

.....

プター：もちろん君の意に沿った会話をする用意はある。おそらく海底地震災害に関する事柄だと思うが。

ビリー：凶星だ。それについて私は君と校正作業を終えた後に、あっちでさらにベルナデッテと話した。テレビは災害のあと「気前よく」約束された寄付の破廉恥な顛末<sup>てんまつ</sup>について報じていた。少なくともテレビや新聞やラジオでは、誰が私利私欲なく何千あるいは何百万というフランやドルやユーロなどを寄付するかということが盛んに喧伝<sup>せんてん</sup>されたが、約束した金をいよいよ本当に寄付するときになると、多くは多額の寄付を約束した覚えはないと言い張る。それは主として企業と政府、それにいくつかの国にも当てはまる。当事者にとって重要なのは、明らかに世界の世論の前に自分を偉く見せ、いい子ぶり、人間的で親切心があるように思わせ、自分の利潤にてこ入れし、世界中で自分の名前が報道されるのを見ることにすぎない。だがいざ払う段になると、恥ずべきことに急にしり込みし出して自分の暗い巣穴に潜り込むのだ。とりわけ弾劾されるべきは、莫大な額の借金を抱えながら、決して払うことのできない巨額を偉そうに寄付すると約束する連中である。アメリカ合衆国を例に挙げよう。この国は東南アジアの津波の犠牲者や災害復興のために厚かましくも数億ドル寄付すると言いながら、自身は約2兆5000億ドルもの借金地獄にあえいでいるのだ。同じく1兆5000億ユーロという借金の山を抱えて破滅に向かっているドイツ連邦共和国は、数億ユーロを寄付すると称している。あれやこれやの国の政府が大口をたたいて約束した寄付金がどこから出てくるのかは神のみぞ知るが、神などというものは約束された金と同じく存在しない。ペルシャもしくはイランのバムで大地震が起きたとき、企業や企業グループ、それに各国政府は11億ドルの寄付を約束したが、最終的にバムに届いたのは1720万ドル、すなわち約束された額の2パーセントにも満たなかったことを思い出すと、私は嘆かわしくも不愉快な気持ちになる。しかもこの1720万ドルという額は大口をたたいた政府や企業や企業グループから寄付されたものではなく、ごく普通の庶民、労働者や老婆から送られたものである。彼ら自身は乏しい生活を送り、何か買うときでも1ペニヒも無駄使いしない。そしていま東南アジアでは総額数十億のユーロまたはドルが約束され、金額だけはいまだに増え続けている。ここでいぶかしく思うのは、そのうちどれだけの額が実際に支払われるか、そしてそのうちどれだけ東南アジアに流れるかということである。しかしこれには別の疑問も加わる。すなわちこの東南アジアの災害ではなぜこれだけ多くの饒舌<sup>じょうぜつ</sup>が弄<sup>ろう</sup>され、新聞やラジオやテレビ、そして政府および支援組織によって募金運動が呼びかけられたのかということである。何年か前、中国で大地震が起きたとき非常に多くの人間が命を失い、今回の東南アジアとは比べ物にな

らないほど多くの事物が破壊されたが、それについてはほとんど誰も騒ぎ立てなかった。その理由は、おそらく中国では東南アジアほど観光業に重きが置かれていないということにすぎまい。なにしろ東南アジアでは大勢の観光客が子供や女性を凌辱できるのである。他の見えすいた口実、たとえば政治上の理由などから中国に対してそれほど援助や同情が寄せられないということもあるだろう。

**プター**：君の発する言葉はすべて真理と合致している。

**ビリー**：君やクウェツアルが過去20年間、今後起きる自然災害について語ってきたすべてのことを考えると、これからもっと悪くなるね。

**プター**：実際これについて未来は非常に暗い。地球はますます反抗的となり、破壊が破滅的な規模で起こるからだ。海底地震は世界中で増え続け、巨大な津波を引き起こして海岸や沿岸地帯をますます危うくするだろう。この場合、大きな湖や河川の沿岸地域も危険にさらされる。概して地震もしくは内陸地震は増大し、想像を絶する被害をもたらすだろう。火山の噴火も激しさを増し、それどころかいくつかの火山は一部爆発するだろう。他方、世界中でありとあらゆる悪天候が激増するだろう。暴風、ハリケーン、台風、そして竜巻、雪崩、大雨が原始世界の力を発揮し、異常な形で死と破壊をもたらすだろう。残念ながらすべての事象において非常に多くの人間が負傷したり、命を落としたりするだろう。今後起きる自然災害の67パーセント以上はもはや純然と自然に起因するものではなく、直接的、間接的に地球人の罪に帰せられる。その場合、すでに犯罪的と指摘されている人口過剰があらゆる害悪の真の根本的な要因をなす。すなわち一切の原因は人間の全般的な人口過剰にあり、それによって計り知れない環境破壊、たとえば凄まじい大気汚染や自然破壊を引き起こされるのだ。それによって大気は温室効果に見舞われ、オゾン層が破壊される。絶えず増大する人口過剰により、人間の毎日の生活に必要なありとあらゆる製品をますます大量に生産しなければならぬ。エネルギー、職場、住宅、道路やその他の交通路など。その結果、森林は開墾され、豊饒な土地はコンクリートで固められ、あるいはその他の方法で破壊される。増大する人口過剰は石油、ガス、鉱石などの地下資源もますます多く必要とする。一つの問題に取り組み、なんとか解決したとしても、すぐにまた同じ問題が新たに出現する。なぜならば問題と取り組み解決している間にも人口過剰は増大して、同じ問題が新たに起きるからだ。こうして地球人が抱える問題やすべての必要は休むことなく増え続け、決して克服できない。それは火を消すのにガソリンを使うのにも等しい。自然に介入することにより貴重な熱帯雨林の破壊が続いているが、それは気候や天候に極めて重大な影響を与え、湖や河川など広い水域が理不尽に干上がっている。人口の急増に対応してインフラストラクチャーを拡大するために、森林を伐採し、自動車道路、工場、無意味な寺院、必要のない巨大なスポーツ施設、住居群などを建設することによって景観も破壊される。水源や小川、大小の河川も人間によって直線的な護岸工事、水辺地域の乱掘や建築によって損なわれている。さらに川や湖から水が奪い取られ、生命にとって重要なすべての因子の自然の営みが阻害される。海底地震や内陸地震に対して責任があるのは、戦争を遂行するすべての犯罪分子である。なぜなら地上および地下での爆弾や爆薬の爆発による凄まじい振動によって、地球全体の構造が歪められているからである。ものすごい振動が地球の地殻構造を変形させる結果、不自然な地殻変位が生じて海底地震や内陸地震を誘発するのである。同様のことは鉱業や採鉱などにおける地中や地上の爆発によっても起きている。地下深い所では振動によって火山も損なわれ、噴火が避けられなくなっている。重機もその振動によって地球を揺さぶり、地殻構造に影響を与える。何十万、何百万もの人間が住む大都市も同様である。そうした場所に人間、建物、機械、自動車、その他あらゆる資材の重量が集中することによって地盤を圧迫し、それによって地殻構造は著しい負担がかかって損なわれる。その結果として激しい地震が誘発されて、すべてのものを破壊し、多くの人間の命を奪うのである。しかしこれらすべての事実は専門の科学者や行政の責任者にも、大多数の一般人

にも無視され、否定され、笑い飛ばされる。そして彼らは愚かな雄羊のように無能な雄山羊によって誤謬と悲惨と滅亡へと導かれるのだ。

**ビリー**：私はほぼ30年来、繰り返し君たちの予告を公表している。そのうえ何千通もの書簡を科学者、大学、政府、その他様々な機関に送った。内容は人口過剰、環境破壊全体、その他すべての害悪についてだ。しかしどれもこれも全く実らなかった。なぜなら、まるで狂った愚か者が世界改良家が戯言で地球人を惑わそうとでもしているかのように、一笑に付されたからだ。返事が来ることは極めて稀で、その件数は片手で数えられるほどだ。というのもこの間中に回答を寄せたのは開明的なスイス連邦内閣閣僚エルンスト・ブルツガー、フィリピン大統領コラソン・アキノ、それからアメリカ合衆国の3人の上院議員だけだからである。このほかに陳腐な内容の返事はあった。それは礼状のようなもので、私が書簡の中で指摘した問題を遺憾に思ったり、承知したりするだけで、それについて何か行動を起こすということはなかった。一般に人口過剰について誰かにこの不幸な状況を訴えても、陳腐な反応しか返ってこない。それは自分では何もできない、誰かが何かやるなら自分もやるというものだ。そしてもし誰かに、個々の人間または小さいグループがどこかで少なくとも一つの害悪に対して何かをする良い手本になるべきだ、たとえば私利私欲を離れて老人や病人や子供たちを助けるべきだと言うと、「そのように他人を助ける人はほかにもたくさんいるはずだ」という怠惰な決まり文句が返ってくるだけである。だがそれは空虚で味気ない言葉だ。これら決まり文句を口にする連中は、どうして自分で何か人助けになることをしようとししないのか。決まり文句を並べることは馬鹿でもできる。しかし自分で手を出し、何か有益なことをするのはそれとは別のことだ。実際、人間は自分が本当に困ってどうにもなくなるか、苦しみや悲しみを我が身に体験しないと、他人の苦しみも理解できない。これらの人間には隣人愛や同情は異国の言葉であり、独善と無関心、無感情と不遜、そして限度を越えた誇大妄想と虚栄心から聞こうともしなければ、学ぼうとも理解しようとししないのだ。

**プター**：それについてはよくわかっている。君が語ったことは残念ながらすべて本当のことだ。

**ビリー**：そう、残念ながらね。ところで、君は戦争に関連して爆弾のことなどを語ったが、君たち民族の間で戦争を終結してすべてを平和にするということを一体どのようにして成就できたのか聞きたいものだ。

**プター**：我々の行動は、我々の手本であったノコデミオンとヘノクの行動様式に基づいていた。君も我々の行動様式と、我々が進んで来た道程は知っているね。

**ビリー**：ああ、そうか。君たちはかつてのノコデミオンとヘノクと同じように、紛争地域を大部分平定した「多国籍平和戦闘部隊」を持っているのだね。私の知識を引き合いに出せば、そうした平定は常に最初にまず特殊部隊による掃討が行われ、戦争責任のある統治者や軍隊の指導者を全員解任してやめさせ、確実に拘禁する。それによって軍隊は指揮系統を失い、戦争行為を停止して降伏し、武装解除される。

**プター**：その通り。戦争責任者は生涯刑務所に抑留されたのだ。つまり軍隊は戦闘で負かされたわけではないので破壊も流血もなく、責任者だけが拘禁、追放されたのだ。これによりほとんどすべての和平プロセスは「強制的非暴力」の行為によって推し進めることができた。戦争を引き起こす政府と戦争を遂行する軍隊のすべての指導者、および革命などのすべての首謀者を拘禁し、生涯追放したことにより、軍隊は指揮者もしくは指導者を失って部隊を解散した。その後これらの部隊は、事態の終了後直ちに形成された新しい平和的な政府の支配下に置かれた。この政府は、戦争を終わらせ国や国民に平和をもたらすために貢献した宗主権もしくは最高主権の監督下に置かれたのだ。

ビリー：「多国籍平和戦闘部隊」は本来の戦争は行わず、和平を実行した。これには誤った政府や軍隊の責任者を拘禁し、追放するということも含まれていた。強制的非暴力がスローガンだった。この方式は地球でもすべての国民に導入して応用すべきだ。

プター：それが地球と地球人類の和平に至る道だろう。

ビリー：君さえよかったら、もう一度我が母なる地球に来るべき破滅的な自然災害の話に戻りたいのだが。私の理解では君が言ったすべてのことの中には、ますますひどくなる大洪水、猛暑による旱魃<sup>かんぼつ</sup>、大寒波、土砂崩れや山崩れ、そして大規模な山火事やあられの大降りも含まれる。あらゆる海上でも嵐が同じように激増し、その結果海岸は内陸に深く入り込み、荒れ狂う水によって多くの場所が引き裂かれ、押し流されると思う。

プター：これに関する君の暗鬱<sup>あんうつ</sup>な想像は、未来がもたらすであろうものと一致している。残念ながら、地球人が理性によってすべてを予防できる時は過ぎた。もし君や我々の警告に耳を傾け、正しく行動していたら、来るべきものを防止することができただろう。だが君も言ったように、すべての警告は馬耳東風とばかりに聞き流され、一笑に付された。そしていま時が至り、我々の警告的な預言が実現し始めようとしている。だが、ついに全人類が目を覚まし、適当な人間的な、しかし根本的な措置によって人口過剰の増大を阻止し、全人口を惑星に見合った規模に削減するならば、まだ最悪の事態を防ぐことができるだろう。それというのも自然災害も含め、今日蔓延<sup>まんえん</sup>しているあらゆる種類の害悪は、ひとえに無責任で、犯罪の域に達している人口過剰に起因しているからだ。

……

ビリー：君の言葉は間違いなく実現するだろう。だからと言って私は、これからも必要なこと、人間として私の責任に属することをやめることはない。世界中にいる我々の会員、すなわち基幹グループ、受動グループおよび支部グループの会員、そして友人も、様々な形でこの責任を遂行するだろう。だから私は彼ら全員の強力な支援を受けることになるが、そのことを私は皆に非常に感謝している。私だけでなく彼らもまたいろいろな攻撃を耐えなければならない。そして我々の地球上でどれほど多くのものが破壊され、戦争が行われ、女や子供が虐待を受け、凌辱され、殺され、犯罪や不法行為、そして人口過剰がますます激増し、惑星とすべての動植物が減びるのを見聞きするとき、自分たちの啓蒙活動に一体どれだけの意味があるか自問することになる。

プター：君の楽天主義は不滅だが、しかしまたそうであるほかはあり得まい。君や君のミッションと結び付いていると感じているすべての者も彼らの楽天主義を消沈させることなく、繰り返すすべてのことに対して積極的に有用に発揮していることは非常に喜ばしく、我々だけでなく、とりわけ全地球人類の感謝に値することだ。彼らの努力によって達成されるものは、君がたゆまず成し遂げつつあるすべての仕事と同じく、その価値は計り知れないからだ。すべての努力が然るべき日に価値多い実を結ぶことを。

ビリー：そう言ってくれてありがとう。ミッションのために努力している多くの者にとって、間違いなく大きな慰めになるだろう。ところでまた、地球人の美容の狂気について君の意見を聞きたい。私が言っているのは、直接肉体に関わること、たとえば脂肪を吸引したり、美容整形手術をしたり、移植によって胸や尻を大きくしたり、あるいは装身具などを過度に身につけたりすることだ。私に言わせれば、ちゃんとした医学



的な理由から肉体に手術を施す必要があるのではない限り、それは正常で健全な思考や感情ではない。それとも私が間違っているだろうか。

**プター**：その件について私は詳細に研究し、地球上の247万6067人の男女を対象に、彼らの動機や心理状態を極めて正確に分析した。その結果、驚くべき事実が判明した。2万1531例というごく少数の事例で正当な医学的理由が認められたが、一方、残りの大多数は例外なく自分の肉体に医学的に無意味な手術を受けていた。その理由はもっぱら劣等感、偏執症や妄想症、そしてまた病的な空想、無知や愚かさに基づいている。

**ビリー**：つまり、医学的な理由から必要もないのに自分の身体にそのような手術をさせる者はみな異常だということだね。

**プター**：異常というのはおそらく適切な言葉ではない。それらの人間は思考と感情の病にかかっているからだ。その限りで何らかの異常を指摘することはできるだろう。つまり病気は正常ではなく、障害のある状態だからだ。これは無知や愚かさにも当てはまることだ。

**ビリー**：私もおよそそんな風に考えていた。異常な思考や感情から自分の体を切り刻ませるなど、頭がどうかしているに違いない。肉体的な美しさを求めて自然にちょっかいを出そうと言うのだ。

**プター**：そのようなことをする人間は、装身具を取り付けたり、体のあらゆる部分、歯にまでピアスをして、肉体が美しくなったと思い込んでいる連中と同様、思考や感情の世界が妄想症の影響で損なわれているのだ。

**ビリー**：私自身はそういうものに吐き気を催す。尻を膨らませたり、胸に移植物を入れたりするのは特にそうだ。そうしたポンプやクッションを用いた細工は美しいどころか、肉体を醜くする。

**プター**：それは私も感じている。しかし地球人が増えれば増えるほど、そうした馬鹿げたことにつつを抜かす人間が多くなる。なぜならば、人間はますます柔弱になり、もはや自然なものでは満足しなくなるからだ。自然なものがますます不自然なものに見なされ、満足感を与える素晴らしいものと見られなくなればなるほど、妄想症的な変節が現実を押しつける。その結果、人間は自分が想像したり空想したりするものとすべてがぴったり一致しないと、心理的な障害に陥る。たとえば女性の場合、胸が少しばかり小さいというだけで心理障害をきたし、自殺に至ることもある。一般に男でも女でもその他多くの陳腐な全くだうでもいような事柄が自殺の<sup>ひそ</sup>悲愴な理由を成している。一般に現代世界、とりわけ高度に進んだ工業国では、自殺はすべての社会階層で急激に増え、若干の国々では非常に高い数字に達している。その理由は非常に様々だが、いくつかの理由が特に際立っている。たとえば人間が自分の思考と感情、したがってまたそこから生じる心理状態も制御できないという事例がますます多くなっている。その根本原因となっている害悪は法外な人口過剰であり、人口が過剰に増えた結果として互いにますます疎遠になり、本当の価値ある人間関係を育むことができなくなっている。人間と人間の結び付きは極めて表面的で安っぽく、あわよくば何らかの利潤を得ようとしている。真実の内面的な結び付きはもはや存在しない。誰も自分のことしか考えず、ほとんどすべての人間にとって隣人の運命は全くだうでもいい。社会的責任も、人間の間になくってはならない社会的な結び付きも汚れてしまった。真に隣人のことを思う人間はおらず、コミュニケーションと言えれば不必要な事柄についてのみ、たとえば快樂、金銭、麻薬、アルコール、邪悪な生活状況、その他多くのネガティブな事柄に関してなされるのみである。ある人間が他の人間をどうにかして<sup>だま</sup>騙したり、強奪したり、盗んだりできるならば、考えなしにやってしまう。その場合、殺人や殺戮を伴うこともある。こうしたすべてのことから人間

の暴力志向も促される。特に若者の暴力志向は非常に深刻な様相を呈している。若者も大人も不法にもありとあらゆる種類の危険な武器を携行し、いつでも同胞に危害を加えるために使う用意があり、殺人や殺戮も厭わないという風潮は多くの苦悩をもたらすだろう。総じて社会的な絆もますます失われ、そのため多くの人間は「社会的」という言葉の背後には、家族、国家、そして人間社会において秩序ある共生を営むという価値があることもはや知らない。が、それは社会主義とはいささかも関係ない。カール・マルクスによれば社会主義は、共産主義に先行する発展段階であり、生産手段の社会的所有や国有化を目指し、あらゆる財を社会の全成員に適正に分配することを目標とする。さらに言うておくと、人口過剰は地球人によって生み出された反自然的なものであり、良いことは全くなく、不利益しかもたらさない。このような不利益の一つに失業があるが、それは地球人の無分別から蔓延したものだ。なぜならば人口過剰によって、なおも報酬に値する仕事ができる人間の労働力が過剰に生み出されたからである。その反面、すべてのものは工業化、自動化され、あるいは何らかの形で単純化されて、人間の労働力はますます必要なくなっている。たとえば高度な工業化がなされる以前には12人でやっていた仕事が、今日では様々な技術的手段を使ってたった一人の人間によって処理される。それもおよそすべてがオートメーションによって制御されるのではなしに人間を必要とし、機器や装置や機械の全複合体を制御し、コントロールすることは人間にしかできないという場合に限る。こうして仕事やコントロールなどの役割に必要とされる人間はますます減少するが、それはとんでもない影響をもたらす。なぜならば、失業は増え続け、その結果人々は報酬が得られなくなり、生計を立てられなくなるからである。そのうえ、総じて今日の企業や企業グループは人間に敵対的な考え方をし、実際にもそのように行動するという事実が加わる。それゆえ、求職において高齢者はもはや考慮されることなく弾かれ、若い労働力だけが求められるとしても驚くに当たらない。高齢者はまるで追放者のように扱われる。それも経済全般に関してだけでなく、病院でも老人ホームでも介護センターなどでも、法外な価格を請求して老人を資金的に搾取していることを私は知っている。老人や高齢者はまるで廃棄物のように扱われる。できるだけ急いで処分される不要でやっかいなゴミのように。友よ、それが私の悲しい認識だ。全体についてもずっと多くのことを語ることもできようが、ひとまず今言ったことだけにしておこう。

**ベリー**：私は付け加えることは何もない。君は問題の核心を正確に突いているから。国民が計画的で統制の取れた出産停止により産児制限を行おうとしないなら、官庁や政府がついに適切に取り仕切り、適切な措置を講じて実施しないならば、残念ながら何も変わらないだろう。不自然なことに触れたついでに、ジョギングや「ノルディック・ウォーク」、あるいは何というのか、2本のストックを持って歩く運動はどうかね。君は体や身体器官にとって極めて不健康だと言ったことがあるが。

**プター**：ジョギングも「ノルディック・ウォーク」も等しく健康に有害だ。なぜならこうした非理性的な種類のスポーツによって骨格や関節、それに身体器官も、強い緊張が加えられたときのように著しく損なわれ、害されるからだ。この場合、特に心機能全体が害される恐れがある。しかしまた肺、脾臓、腎臓も同様である。同じことは他の種類のスポーツでも起こる。サッカー、種々の氷雪スポーツ、自転車スポーツ、その他肉体に極度の負担を強いるすべてのスポーツもそうである。総じて身体の鍛錬を目的とするすべての種類のスポーツは、正常の範囲を越えたら誤りである。過激主義、狂信主義、あるいはやり過ぎに属さないものはすべて正常と呼べる。その場合、たとえ正常なスポーツでも過度な緊張に逸脱しないように留意しなければならない。

**ベリー**：つまりスポーツでも「過ぎたるは及ばざるがごとし」という格言があてはまるというわけだね。だが、君たちのもとでは何が「正常なスポーツ」と理解されているのだね。人間は日常的にどのような運動を必要としているのかね。散歩はどうかね。

**プター**：通常の歩行による散歩なら毎日20ないし30分もやれば、体に必要な運動には十分だ。散歩が可能でないならば、同じ時間いろいろな体操をやるのもよい。もちろん散歩や体操をやる時間は、好みによって延ばすこともできる。が、それは常に理性的な範囲内にとどまり、骨格や体質の状態と調和していなければならない。格別の努力は必要なく、逆にそれは体や器官、骨格や関節に害を与えかねない。そうした害は密かに忍び寄り、すぐには回復できないものである。

**ビリー**：つまりすべての極端なスポーツは完全に間違いであり、拒否すべきなのだね。

**プター**：すべての極端なスポーツに関して地球人の間では、人間は能力や体力の限界に挑むことによって自分を確認しなければならないという愚かで誤った意見が支配している。このような錯誤は、美容の狂気にも見られた妄想症の一種であり、ここでも劣等感が無知および愚かさとは結合している。

**ビリー**：極めて種々雑多な狂信的なスポーツ愛好者が、スポーツ選手やスポーツそのものを偶像化しているが、それについてはどうだね。君たちの間にもそうしたことはあるかね。

**プター**：それは我々の国民には見られないものだ。これについて地球で行った我々の調査によると、スポーツや人物や事物などの狂信的な愛好者は、自分自身の主体性を欠いているために、その人格および性格に関して自分自身を越えてより高い価値を創り出すことができない人間たちである。そのためこれらの人間はいつも他人の実績に依存している。なぜなら、彼らは自分の可能性が能力や技量に発展するのを自らの狂信主義によって阻み、それによってまた自分の性格と人格の発達も妨害しているからである。

**ビリー**：その視点から考えたことはなかった。だが、それについて改めてそのように考えて見れば…

### 第372回会見 2005年1月14日金曜日、0時55分

**ビリー**：よろしい。前回の訪問のとき、我々の個人的な会話のなかで君は合衆国大統領ジョージ W. ブッシュが、再びペルシャもしくはイランのことで何かよからぬことをたくらんでいると言ったね。これについて公にもう少し語ってくれないかね。

**プター**：それは別に秘密ではない。ブッシュという男は誇大妄想に駆られて、自分は地上における神の代理人で、この世界はあらゆる悪から解放しなければならないと固く信じ込んでいる。だが戦争とテロに関して言えば自分こそ一番の害悪であるという考えは、その教派的妄想によって完全に押しつけてしまった。彼はこの妄想に強く捕らわれていて、自分の教派的信仰と異なる信仰の持ち主はすべて根絶やしにしようと思っている。そして彼は特にイスラム教徒に照準を当てた。この意味で最大の役割を果たしているのは、一切をアメリカとキリスト教の支配下に置くためには、イスラム世界で完全に権力を掌握しなければならないという妄想観念である。これに関して彼にとって最も自明なことは、アフガニスタンからイラクに至るまでアメリカの支配下にあるベルト状の領域を構築することである。この両国の間にあるのはイランだけだが、そのイランは核兵器を作ることに関心を持っているという。だがこれはまさしくイラン攻撃の作戦計画を立てるための嘘の口実である。同じことを彼はイラクでもやったし、アフガニスタンでも似たようなことをした。その結果どうなるかは、あいにくまだ最終的にはっきりしていない。なぜなら、なおも極めて様々な要因が未定であり、そのため全体がまだ最終的にはっきりとは見通せないからである。だが疑う余地のないのは、

すでにアメリカ軍の秘密部隊はイランで作戦を展開しており、諜報活動などを行っているということである。

……

**ビリー**：…もしよかったらアメリカの計画や、ペルシャもしくはイランのことで予視をしてもらえないだろうか。どうだね。

**プター**：君は飽くことなき人間だ。私がそれをしても価値ある実は結ばないと思う。地球人が予言によって教化されないことは、君も知っている通りだ。これについてはおよそ30年も経験を積み、警告が実りのないものであることは体験済みだ。

**ビリー**：たとえそうであっても、そう簡単に希望を捨てられるものではない。教派的で妄想症の戦争扇動者であるジョージ W. ブッシュ合衆国大統領の統治下で、アフガニスタンやイラクで起きたすべてのことを考え合わせると、この男がイランでも死と破壊の工作を繰り返すことは容易に推定できる。場合によっては本当に第三次世界大戦につながる恐れもあり、古い預言にあるようにそれは2006年であるかもしれないのだ。だが我々はこの預言で言われているいくつかのことが良い方向に向かうことを期待している。君は、希望という言葉を知っているね。…だがチャンスはどの程度あると思うかね。カードはまだまかれていないのかね。

**プター**：まだ何も決まっていない。だがブッシュ大統領という残忍で、教派的で、戦争好きで、破壊狂的な専制君主のもとで地球人が持っているカードは非常に悪い。我々としては、この男が熟慮の末に自分が地球の人類の救済者だなどという妄想を捨て去るという希望は非常に薄い。彼は同じく教派的で誇大妄想の大統領補佐官コンドリーザ・ライスと悪の馬車を引いている。その馬車は極めて独善的、誇大妄想的で、全く無責任にも地球人を第三次世界大戦へと導きかねないのだ。

……

**ビリー**：ありがとう、それは我々にとって非常に有益だ。では欲望と願望の背後に潜んでいる君の指示に従うことにしよう。ところで、さらに私に興味があるのは、インドネシア、タイ、インド、アフリカ、スリランカで起きた海底地震による死者に関して、その後何か新しいニュースはないかということだ。2004年12月31日以降、新しいデータは収集したかね。

**プター**：その通りだ。これに関する作業を昨日18時10分に行い、データ収集の対象地域を陸と海で若干拡大した。それによって2004年12月26日に災害によって死亡した人間の11万6406件のバイオグラムを示す追加のデータが得られた。このほかに、2004年12月31日から昨年18時10分までに災害の間接的な影響により命を失った人間の数は2312人に達した。この数字には被災状況に起因する病気で死亡した者や、被災後の非常に困難な状況および愛する者を失った悲しみから自殺した者も含まれている。したがって昨年18時10分までに死亡した人間の総数は35万9796人である。だがこれは最終的な数字ではあるまい。これから時間が経てば病気や自殺によって命を失う人間の数がさらに増えるからだ。いずれにしても、すべての被災国の所轄官庁が死者の正確な数を出すことは不可能に近い。

**ビリー**：私もそう思う。ところで、今言ったことについて予視を行うのはどうかね。おそらく有益だと思うが。

プター：君は本当に飽くことを知らないね。君が望む通りにしよう。

### 第373回会見 2005年1月21日金曜日、0時17分

ビリー：それはまた別の話だ。陸上地震や海底地震、洪水、ハリケーンや台風、竜巻や大暴風、山火事、旱魃<sup>かんぱつ</sup>、ありとあらゆる悪天候、そして環境破壊、大気汚染などはこれまでも常に存在しており、これに関して現在起きていることや今後起きることは、以前と比べてひどくはないと主張する人々がいつも必ずいる。他方、今日テレビや新聞や雑誌がセンセーショナルに訴えているという理由だけで、すべて前よりも悪くなっているとも言われる。君の意見はどうかね。また、このたびのインドネシアの災害で教派の世界没落預言者たちがまたぞろ一儲けしようとたくらみ、信者たちに不安と恐怖を吹き込んでいることについてはどう思うか。

プター：彼らが自然災害とその影響は一定で変わらないなどと言うのは馬鹿げている。それは真理とは相容れないからだ。もちろん、現代は様々な媒体による災害警報を普及させることができるので災害情報の門戸は大きく開かれており、そしてあらゆるものがセンセーショナルに喧伝<sup>せんでん</sup>され、利用し尽くされ、販売されている。しかし、それは自然災害の規模が昔から一定であったなどということとは全く関係ない。すべての自然災害の全体の規模は、その強さも数も増しているというのが事実である。台風、竜巻、大暴風、ハリケーン、降雨、降雪、降雹<sup>こうはん</sup>だけでも、その強さは1914年から38パーセント増しており、海底地震と陸上地震の数も当時から今日まで27パーセント増えた。火山活動も世界中で6パーセント増加した。すべての自然災害は自然の通常の規模を完全に逸脱しているが、地球は本来そうした自然災害をもたらすような発展状態にはない。それは我々のすべての研究、分析および記録が証明している。それゆえこれに関して一切が旧来の枠の中で推移しているなどと想定するのは大変な誤りであり、そのように主張するのは馬鹿げたことだ。なぜなら真理は別の事実を示しているからである。実際、自然災害に関して今後起きることは、破滅的と呼び得る性格のものであろう。このような事態に至るには地球人自身が大いに寄与した。信じがたいことだがこれらの現象の実に67パーセントが地球人に起因しているのである。地球人が早急に熟慮<sup>じゆりよく</sup>しなければ、このパーセンテージはもっと上がるだろう。すでに教派的分子がまたぞろ動き出し、インドネシアなどの海底地震の結果を受けて世界の没落が近づいているなどと預言し、それは神の罰にほかならないと主張している。だが、もちろんそれは絶対に馬鹿げたことであり、全く教派的な妄想である。世界が没落することもなければ、地球に罰を与えるような神も存在しない。いかなる宗教的な神格も空想的なイメージ以外の何物でもなく、それらが下すという罰も同様である。これに関する思考や、それと平行している宗教または教派の信仰はいかなる場合も、自らを「神の告知者」と見なす連中や、同胞を意識的に騙<sup>だま</sup>してとんでもない戯言<sup>じゆばく</sup>で呪縛する術を心得ている連中が作り出した人間の空想の産物によるものだ。それゆえいかなる種類の自然現象も決して何らかの神格が罰として与えるものではなく、神が世界の没落を引き起こすという信仰も全く馬鹿げている。もし世界が没落するとしたならば、それはひとえに人間のせいである。人間は人口過剰によって自然のあらゆる力の限度を越えさせてしまった。なぜならば、人間はその策謀によって自然の本来の成り行きを阻害し、その結果否応なく自然の中に、また惑星そのものに変節を生じさせたからである。世界の没落も象徴的な意味で受け取ることはできる。なぜなら、没落とは全生態系が、したがってまた人間や動植物が生存するすべての可能性が完全に破壊されてしまうことであって、地球が根底から破壊されて壊滅するというようなことではないからである。我々が破壊と言うときはそのような意味であり、教派や宗教の信仰とも、神の罰とも全然関係ないのである。

ビリー：アメリカ合衆国の戦争挑発者ブッシュの大統領再選は世界にとってどんな意味を持つと思うかね。

プター：地球人の歴史において、地球の人類全体と世界平和にとってこれほど大きな危険をもたらした権力者はいまだかつて存在したことがない。この男に投票し、今日なお歓呼を送っている連中はいかに愚かであることか。

ビリー：地球の人間は完全に誤った軌道で思考しているので、教化されるということはほとんどあり得ない。それはこの件だけでなく、別の件でも立証される。たとえばスイス政府は自動車などに対して炭酸ガス税を導入しようとしている。なぜならば統治者たちは、それによって炭酸ガスの排出および温室効果を抑制できるという間違っただけの考え方をしているからだ。哀れな愚か者は、炭酸ガスの産出は人口過剰の増大に比例してさらに上昇するから、そのようなやり方では大した効果を生まないことに考えが及ばないのである。私の考えでは、適当な時間的周期で世界中で厳格な出産停止を実施して、人口過剰を徹底的に減らす以外に取り得る対策はない。地球上に、そして人類の間に存在している他のどんな問題も、人口過剰が進むに連れて絶えず増大する。なぜならば、たとえ一つの問題がある時間内に克服されたとしても、その間に人口過剰は再びもの凄い勢いで進んでいるために、克服された時点で問題は数倍も大きくなっているからである。このように問題は事実上決して解決できない。どんなに問題の解決を試みても、焼け石に水だからである。

プター：君はその問題をすでに20世紀の50年代に、まさにその問題が存在する場所で認識していた。

### 第374回会見 2005年1月25日火曜日、0時17分

ビリー：オーケー。ではアメリカの大統領補佐官コンドリーザ・ライスに関する君の意見を聞きたい。君はこの女性をどう評価するかね。

クウェツァル：彼女は、合衆国大統領のサイドで最も危険な分子だ。権力や暴力を行使することにかけてはジョージ・ウォーカー・ブッシュに劣らず節度を失っているからだ。両者とも誇大妄想に囚われており、自分が直接神の命によって行動し、世界をテロリズムから解放しなければならぬと信じ込んでいる。彼女はそのような妄想を抱いて自分が世界に最大の厄害をもたらす、世界で最大のテロを成しているということ、自らの妄想症のために認識できなくなっているのである。二人とも妄想症のほかに重度の精神障害があるが、それは重い適応障害を伴う異常な感情・心理生活に現れている。彼らは自分たちの思考、感情および行動の世界が持つ途方もない影響力を全く意識していない。なぜならこの点で彼らは惑乱した非論理的で現実と疎遠な世界に生きているからである。それは教派的な錯誤のみならず、権力行使と不遜の欲望、そしてまた癒しがたい誇大妄想によって培われた状態である。

ビリー：それは非常に明解な評価だ。ところでイランに対する攻撃について、すでに何か詳しいことはわかったかね。プターは私の要望に応じて予視をすと言ったが。

.....

ビリー：さて、ここで君の意見を聞きたいのだが。まもなくまたポーランドのアウシュビッツ＝ビルケナウにあったナチの強制収容所に関する記念式典が行われる。ナチがユダヤ人、意識障害者、犯罪者、ドイツ系

および非ドイツ系ジプシーなどを殺害するためにガス室を工場のように運営していた絶滅収容所を、1945年1月27日ソ連軍が解放したのだ。以前にも言ったことがあるが、私の考えではそのような記念式典は非人間的なだけでなく、愚かでもある。なぜならそれがきっかけとなってナチズムや極右主義が再び勢いづき、その結果新たなテロが生まれるからだ。アウシュビッツ＝ビルケナウに関して1996年に1月27日の解放日を公式の記念日として定めた。それは全く浅はかなことであり、それによって古い傷が再び切り開かれ、恐怖が蘇り、またそこから新たなテロ行為やナチの策謀が生じるという私の意見について君はどう思うかね。今日すでにドイツでは再びNPDが国政に参加することができるようになった。この組織は「ドイツ国民民主党」であるが、「国民」は正しくは「国家（ナチ）」または「国家社会主義（ナチズム）」と理解すべきである。かつてのナチ政権について何が起こったか、したがってまた将来何が起こり得るかについて極めてよく知っているにもかかわらず、ドイツが再びナチ党を許すことが私には解せない。ドイツは本当に理解しがたい。なぜなら、ネオナチ勢力に対抗し、彼らを国政から追放しなければ、またもや悲惨な結果になるからだ。どうやらドイツでは、戦後「二度と戦争はしない」と叫び、そして書いたドイツ人の言葉が忘れ去られたようだ。それが忘れられたことは、ドイツ国防軍をアフガニスタンなどの外国に派遣し、ドイツ兵がアメリカ人と一緒になって国を占領していることによっても証明される。これは非公式なことではあるが。

**クウェツァル：**残念ながら君の言葉は事実に相違ない。NPDによりナチズムはドイツで再び公然と足場を固めることができた。これにはドイツ政府自体に大いに責任がある。なぜならドイツ政府は国を統治する能力がないからだ。そこには失業、約1兆5千億ユーロという巨額の負債、EUへの加盟、アメリカ合衆国との友好関係、そして戦争指導者ジョージ W. ブッシュのためのドイツ人の下働きという要因も決定的な役割を果たしている。これらの要因は、ドイツではすべてが良くなる代わりに、ますます悪くなるという結果を招いている。君が語った間近のアウシュビッツ＝ビルケナウの記念式典について言えば、事態は特にひどい。というのは、かつての第二次世界大戦当時のおぞましい出来事が再び思い起こされることによって、極右主義、とりわけネオナチズムを繰り返し勢いづかせているからだ。このような記念式典の責任者は、実態は戦争や人殺しや人類の財産の破壊を賛美する反戦映画、回想映画および書籍も含めて、君の口癖に言う言語道断なほどに愚かしく心理学的に未発達である。これに関わる責任者は全員、ネオナチズムや極右主義によって生じる新たな残虐行為の本来の張本人である。しかしまた彼らは、そこから左翼的な過激主義が生まれ、極右主義に劣らずひどいか、ひどくなる恐れがあるということに対しても責任がある。さらに言うならば、恥ずべきことにそうしたありとあらゆる種類の回想策謀の責任者や協力者が称えられ、尊敬されているのだ。このことはかつて辛酸をなめた過去を持ちながら協力している者についても言える。彼らはみな阿諛追従や表彰のせいで自分を強く偉大な者であるかのように感じている。自分たちは特別の存在であり、説明や思い出話をすることによって、かつての残虐行為の張本人の子孫の目の前に繰り返し昔の恐怖を突き出して、彼らの内に罪の感情を目覚めさせ、本来は彼ら自身の責任ではなく彼らの先祖の責任である事柄や行為に対して金銭的な賠償を求める権利があると信じているのだ。第二次世界大戦のホロコーストは過ぎ去ったものであり、過去にとどめておくべきである。そうせずに記念日や記念祭を催し、おおげさな演説を弄し、映画を撮り、本を書いたりするならば、そもそも根本的に弾劾されねばならず、変更不能の過去に属するものを賛美することになる。昔の出来事を忘れてはならず、それゆえ繰り返し人々に思い出させなければならないという、愚かで非論理的で妄想症的な言い分はなんとも馬鹿げており、そのような催しの責任者や協力者は社会から隔絶し、気違い収容施設に送り込むべきであろう。地球では恥ずべきことに意識病患者を監禁することが、未だに普通に行われているのだから。だが、気違い病院に収容されるべきはこうした人々ではなく、そのような記念式典の責任者や協力者である。それには言うまでもなく、このような馬鹿げた催しに手を貸し、悪魔のように不誠実で偽善的な美辞麗句と無実の子孫への責任転嫁によって遠い将来まで保証している統治者も含まれる。多くの極右主義者やネオナチの信奉者が極右主義やネオナチズムに入り込むのは、私が

確認したところによると、浅はかにもとうに過ぎ去った非人間的な出来事を記念することによって、かつての犯行者たちの子孫や、これに関して全く罪のない者たちの内に罪の感情をあおり立てている責任者たちの病的なまでに愚かな策謀により、彼らが罪の意識を感じるからにすぎない。これは否応なく憎しみにつながり、そこからテロ行為が生まれる。なぜならば罪の意識に追いやられた者は、同じくその無分別の極みにおいて、そうする以外に自分を防御する術がないからである。その一方で別の連中はそのような式典によって惑わされて憎悪と眩惑<sup>げんわく</sup>のとりこになり、さらにまた別の者たちは惑乱して同じ行為へと駆り立てられる。だがすべての責任者によって本来弾劾されねばならないこと、すなわちアメリカがアフガニスタンやイラクに侵攻し、戦闘行為と拷問により何千もの人間が殺されたような、現在と未来における不法な犯罪行為は弾劾されない。また、アメリカの世界支配の欲望を阻止し、権力欲に取り憑かれた責任者を永久に解任するためにも、何もなされない。反対に、これら責任者たちの行為が称賛され、アメリカ大統領ジョージ W. ブッシュや大統領補佐官コンドリーザ・ライスのように、本来の戦争扇動者は国民から歓呼され、いわば神聖の域にまで持ち上げられる。その反面、地球のすべての民族の間に真の平和を生み出すために何もなされない。というも、妄想症で精神病質の統治者と、彼らに狂信的に歓呼する愚鈍な国民は、非常に愚かで低能なため、戦争や諜報活動やテロ攻撃によって平和を創り出せると信じているのだ。また、真に価値のある人類の進歩のためには何もなされず、ひたすら世界と人類を悲惨な苦しみに駆り立てる犯罪的な統治者の権力を維持するためにだけなされる。さらにまた殺傷力がより強い新兵器を開発し、民族同士を戦わせ、とりわけ人類をアメリカの旗のもとに隷属させるためのみになされる。地球人がついに目覚めて、すべての民族がテロと抑圧を生み出している犯罪的な連中を政府から追放しない限り、何も変わることはないだろう。言うも恥ずべきことだが、誤った政府の中に常に巣くっている犯罪的分子はごく少数にすぎず、彼らは独善的で、完全に無責任で、権力欲に憑かれて国民に対し暴力と強制を加えているが、大多数の国民はそれに対して何もしないため、決して良くはならないのである。戦争、テロ、破壊、苦しみと悲惨、そして破滅を自国民の間に広め、あるいは世界に持ち出している犯罪的な権力者に対して国民が団結して立ち上がらない限り、何事も良くなるは変わらないのである。

ビリー

FIGU 特別公報 第11巻第16号 (2005年2月) 速報版 無料  
FIGU-SONDER-BULLETIN, 11.Jahrgang, Nr.16, Feb 2005

発行日 2006年1月1日 ©

監訳 フィグ・ヤーパン

翻訳 明瀬 一裕

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>E-mail [jp@figu.org](mailto:jp@figu.org)

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。